

がんばる
Chubu

観光地域づくり編

1本の桜の木がもたらした 地域おこしの奇跡

昇龍道のモデルコース周辺で展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。今回のエリアは静岡県賀茂郡河津町。1カ月で約100万人が訪れる「河津桜まつり」を成功へと導いた物語、そして新しい桜の景観づくりや1年中楽しめる観光地域づくりを目指していく姿を紹介する。



観光地として無名だった河津町を一躍有名にした早咲きの桜

一足早く春を告げる河津桜の生い立ち

淡紅色の花びらを優雅に揺らし、早春の訪れを告げる「河津桜」。伊豆半島の東岸に位置する河津町で生まれた早咲きの桜だ。今では2月10日から3月10日まで開催される「河津桜まつり」に100万人ほどの観光客が押し寄せる伊豆の一大イベントとなっているが、その歴史は意外に浅い。

河津桜の原木は1955年頃、町民が河津川の河原で芽吹いていた苗木を偶然発見し、自宅に持ち帰って庭に植えたもの。その後10年で開花がはじまるが、人々を



河津町田中の飯田氏宅(個人宅)の庭に立つ河津桜の原木。河津町だけでなく全国にある河津桜の元になっている

驚かせたのは開花時期の早さと開花期間の長さだった。1月下旬から咲きはじめ、約1カ月にわたり咲き続いていく。調査の結果、新品種の桜と認められ、1974年

に河津桜と命名され、翌1975年には河津町の木に指定された。

大成功を遂げた河津桜による地域おこし

河津桜をより多くの人に見てもらおうと、1975年頃から観光協会を中心に、河津町役場、商工会、地元住民らが一丸となり、河津川河口付近や伊豆急行河津駅付近に200本の植栽を行った。その桜が成長し、満開の花を咲かせるようになった1992年、第1回河津桜まつりを開催。1カ月間の観光入込客数は3,000人とこぢんまりとしたスタートだったが、その後桜の植栽もどんどん増やし、菓子や地場産品を売る店も出はじめ、1996年の第6回には10万人を数え、1999年の第9回には100万人を突破した。

観光客急増のきっかけは、早春の新しい桜の名所として大手新聞各社に一面で大きく取り上げられたことや、NHKの定点カメラで朝のニュースや天気予報の背景に桜並木が映し出されたこと。河津川沿いに広がる満開の桜と菜の花の映像がマスコミで紹介されるたび

に知名度は上がり、オフシーズンで観光バスを持って余っていた旅行会社の目にも留まった。さらに1998年、「小さな旅」というテレビ番組で河津桜の生い立ちや、地域の思いなどが取り上げられると大反響が起り、大手旅行雑誌に特集記事が組まれるほどにもなった。

河津町の観光地域づくりの立役者

桜まつりをはじめ河津町が観光地として注目を集めるようになったのには、一人の立役者が存在する。1986年から2010年の6期にわたり河津町長を務め、観光庁の「観光カリスマ百選※」にも選ばれている桜井泰次さんだ。



元河津町長の桜井泰次さん(84)
河津七滝の初景滝にて

稲取、下田といった人気の温泉地に挟まれ、観光客がほとんどこない場所だった。桜井さんは、地域のリーダーとして観光開発に尽力するとともに、1978年には観光協会の会長に就任した。伊豆という一大観光地の中で無名

桜井さんは、1972年に天城山系に位置する七滝地区ななたるに七滝温泉ホテルを設立。今でこそ素晴らしい自然景観や小説『伊豆の踊子』の舞台として有名な観光地だが、

当時は近隣の熱川、

の河津町を何とか活性化したいという思いから、1986年には2度目の挑戦で河津町長に当選。「少ない予算で多くの人を集める」ことをモットー

に、花と温泉による観光地域づくりを手掛けていった。

河津町はバラ、花菖蒲、カーネーションなどの花卉栽培が盛んな地であり、その資源を生かした観光施設をつくろうと模索しはじめた。そこで桜井さんは、県や国から補助金を獲得するため奔走し、その手腕を発揮。フランスのバラ園を再現した「河津バガテル公園」や「かわづ花菖蒲園」「かわづカーネーション見本園」を次々とオープンさせた。さらに、「河津七滝」の遊歩道や東洋一大噴湯「峰温泉大噴湯公園」も整備するなど、自身の掲げるモットーをまさに実践し、年間を通して花と温泉を楽しめる観光名所をつくりあげていった。

※各地で観光振興の核となる人材を育てていくため、その先達となる人々を「観光カリスマ百選」として観光庁が選定している



フランスの「パリ・バガテル公園」の姉妹園としてオープンした「河津バガテル公園」には、1,100品種、6,000株のバラが植栽されている

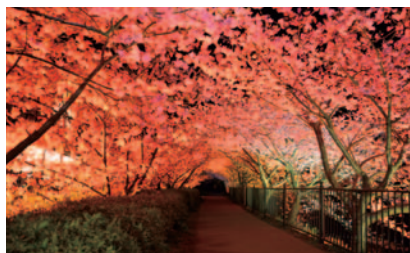


峰温泉大噴湯は100℃の温泉が毎分600ℓ、高さ約30mまで噴き上げる自噴泉

1年中訪れる人が絶えない観光地域づくりを目指して

桜まつりを通して地域の連携が深まる

順調な入込を見せる桜まつりだが、その大半は日帰り客だった。そこで桜井さんは、宿泊客獲得につなげるため旅館組合青年部に協力を仰ぎ、1998年から夜桜まつりを実施した。その結果、河津町以外の温泉地に宿泊する客も増加し、伊豆全土に多大な波及効果をもたらした。



夜桜まつりではライトアップされた桜が醸し出す幻想的な世界を満喫できる

2002年には、河津町役場、観光協会、商工会、農業・漁業・林業の各組合などで「河津桜まつり実行委員会」が組織され、これまでの観光協会に



2011年からは静岡県東部・伊豆半島のB級グルメを集めたイベントも開催

代わり桜まつりを主催することとなった。桜まつりへの出店数も150軒ほどに膨れ上がり、地元若者や主婦も駆り出され毎年アルバイト争奪戦が起こるほどと言う。また、交通整備や清掃はシルバー人材センターに依頼するなど、これまで以上に多様な組織や人が関わり、地域総出で桜まつりを盛り上げている。その結果、東日本大震災や咲き具合の影響で減少した年を除き、観光入込客数は100万人前後を維持し続けている。

河津桜の植え替えに大きな壁が立ち上がる

伊豆の風物詩として全国的に有名になった桜まつりにも、さまざまな課題は存在する。その一つは駐車場問題。期間中に訪れる3,000台の大型バスには会場近隣の土地を河津町役場が借り上げ駐車場とし、35,000台の乗用車には伊豆急行と連携したパーク&ライドで対処している。しかし最近、SNSの普及で桜の満開状況が一目でわかるようになったため、最も見ごろの週末に観光客が集中するようになった。駐車場は不足し、これ以上つくる土地もなく、主催者の頭を悩ませている。



この美しい桜並木が将来見られなくなってしまうのは非常に残念だ

さらに大きな課題として、河川法という壁にぶつかっている。現在、河津町内にある8,000本の河津桜のうち、850本が河津川沿い4kmに美しい桜並木をつくっている。しかし、この川沿いの桜の大半が見られなくなる時期が近づいてきた。それは1998年施行の改正河川法で、堤防の樹木は根元から水が入り土壌が緩んで決壊しやすくなり、また流木に

よる堤防の損壊や水位上昇につながる恐れもあることから、堤防の川側に植樹することが禁止されたからだ。

一般的に桜の木の寿命は60年と言われているが、河津桜の原木は現在60年を超えてなお美しい花を咲かせている。しかし、川沿いの桜には老木化したものが見られるようになり、10年後か20年後、いつ寿命がくるかわからない状態だ。河川管理者からは、この一代限りだと通告されているため植え替えはできず、新しい桜並木の景観づくりに取り組んでいくこととなった。

試練を乗り越えてさらなる地域の活性化を



河津桜の剪定作業も地域の人の力によって成り立っている

河津町役場では、2014年に「河津桜保護育成計画」を策定し、河津桜を適切に手入れしていく団体として河津桜守人制度の創設や守人の育成、伊豆縦貫自動車道の整備にあわせて河津桜を増やして新たな桜の名所を整備するなど、河津桜発祥の地としての

「ふるさとづくり」に力を入れている。河川法の問題には現在、河津町役場、河川管理者、住民の間で意見交換の場が設けられ、2017年度中をめどに「河津川流域における河津桜並木景観計画」を策定する予定だ。

ただし、河津桜ばかりに頼ってもいけない。桜まつり以外の残り11か月に関しては、ここ数年観光客の減少に悩まされており、残念なことにかわづ花菖蒲園も2017年をもって閉園となってしまった。そのような中、注目すべきは、地域の特産品「わさび」による地域おこしがはじまったことだ。

2013年、人気ドラマ「孤独のグルメ」で七滝地区の名物「わさび丼」が取り上げられたことから、連日行列ができ、提供する店舗も増加した。また同年、商工会や伊豆急行を中心に「河津わさびで泣かせ隊」が結成され、わさびグル



アツアツご飯に鯉節と特産のわさびのせた「わさび丼」。シンプルだからこそ香り高いわさびの味が堪能できる



パンにわさびを練りこんだバターと粒あんをサンドした「あんバターわさこ」

メのメニュー開発がはじまった。2015年にはその中の有志で(株)泣かせ隊を設立、「あんバターわさこ」や「河津鮎泣きそば」など7つのメニューが誕

生した。これらはわさび丼の聖地、七滝地区の泣かせ隊食堂や河津町内の飲食店などで提供されている。

1本の桜の木との出会いからはじまった地域おこしにより、今では観光が基幹産業になるまで成長した河津町。長年にわたり先導してきた桜井さんは、「河津町には八丁池やその周辺のブナ林、天城山隧道から河津七滝への踊子歩道など、観光資源はまだまだまだたくさんある。これらをもっと充実させ、例えば近年の健康志向にマッチした新しい観光商品を造成するなど、誘客拡大を図ることはもっとできるはずだ」と鼓舞する。

今、河津町の観光地域づくりは幾つかの試練に直面しているが、これまでのように地域が一丸となり、考えを出しあうことで、近い将来年間を通して来訪客が絶えない観光地になることを願ってやまない。

文:企画部 櫻井 景子
取材協力:七滝温泉ホテル
代表取締役 桜井泰次氏、
河津町産業振興課、
(一社)河津町観光協会
写真提供:河津町産業振興課、
(一社)河津町観光協会



今年も2月10日から3月10日まで開催！
大人気の河津桜まつり！！
 河津町内の観光名所や温泉にも
 足を運んでみませんか



※河津桜の名所
 (浜橋～峰橋：約4km)



かわづカーネーション見本園
 温室で約360品種、14,000本のカーネーションを試験栽培
 定休日/水曜日
 但し河津桜まつり期間中は無休



天城山隧道
 国指定重要文化財



釜滝
 鉢の山▲619



河津踊子滝見橋



河津七滝ループ橋



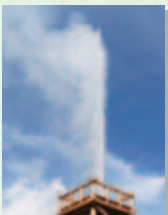
踊り子温泉会館



河津桜



来宮神社の大楠
 国指定天然記念物
 (樹齢1,000年以上)



峰温泉大噴湯公園
 定休日/毎週火・金曜日



河津ハガテル公園
 定休日/木曜日
 但し1月1日～3日、
 河津桜まつり期間と
 5・6・10・11月は無休



**伊豆ならんだの里
 河津平安の仏像展示館**
 定休日/毎週水曜日



河津三郎の足湯処



舟戸の番屋露天風呂
 定休日/毎週火曜日



今井浜海水浴場